

日外協「シミュレーションセミナー」

海外安全センターでは、会員企業の安全対策推進をサポートするため様々な事業を計画・立案し実施している。ここでは、去る7月9日に行った「シミュレーションセミナー 誘拐事件対応」をご紹介します。

目的

新型コロナウイルス感染拡大でダメージを受けた企業活動を再び活性化させるためには、海外安全・危機管理対策に万全を期す必要がある。折しも、世界がコロナ危機に陥る中、貧困や極端な治安の悪化により強盗やテロ、誘拐などの犯罪が横行するリスクが高まっている。

コロナ禍のような長期間にわたる危機のさなかに誘拐などの事件や事故が併発すると、海外安全担当者の心労は想像を絶することになる。

本セミナーは受講者が誘拐事件対応の実態を疑似体験しながら、危機に対し冷静に備え、行動できるようになることを目的に企画した。

なお、今回はコロナ対策のため、講師もマスク、シールド越しでの開催となった。

内容

講師はこの分野のエキスパート、(株)オオコシセキュリティ コンサルタントの大越修社長と松丸俊彦シニア・コンサルタント。大越社長の基調講演の後、松丸氏によるシミュレーショントレーニングが約3時間(休憩含む)行われた。

受講者は2チームに分かれ、日本本社、現地対策本部の担当者として、誘拐事件の発生から



身代金の受け渡し、人質解放までの一連の流れを体験する。まず、事件発生を受けて現地対策本部の招集、日本本社への報告、本社の初動対応のあり方などをチームで議論。議論の内容を代表者が発表し、それに対し講師からの講評・解説が行われる。その後も、誘拐事件のフェーズに合わせ、種々の設問が用意されており、受講者はそれらに回答していくというかたちでセミナーは進行する。

実地訓練では、銃を向けられた際の対処法や拉致・拘束の実演も行われた。



参加者の声

- ・ 自社の危機管理マニュアルの再整備、見直しを行う機会になった
- ・ 対策本部や支援部隊の人員を明確に指名し、体制整備を行いたい
- ・ マニュアルはあるが、有事の対応訓練を検討する
- ・ 現地の体制整備は難しい課題
- ・ コンサルタントの重要性が分かった

*

本セミナーは、年1回開催している。受講者同志で議論しながら課題に対応していく実践的で有用なセミナーである。ぜひともご活用いただきたい。

(日外協 海外安全センター 主幹 近藤 純)